

令和6年度全国学力・学習状況調査(4/18 6・9学年実施)について、結果が公表されましたので、本校の結果ならびに分析と対策についてお知らせいたします。

I 結果

学年	令和6年度	国語	算数・数学
6学年	全国	67.7	63.4
	茨城県	67	62
	本校	69	65
9学年	全国	58.1	52.5
	茨城県	59	51
	本校	70	62

2 6学年の分析と対策

(1) 国語

○成果が見られた問題

2 一(1) <本校 90.5% 県 80.8% 全国 80.3%>

目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる問題

【分析】

- ・普段から、いろいろな思考ツールを使って授業に取り組んだ結果だと考えられる。特に、アイデアを出し、共通点を見つけるウェビングは、国語科に限らず総合的な学習の時間等でも使用することが多いため、高い正答率につながったのではないかと考えられる。

●課題のある問題

3 ニ(1) <本校 47.6% 県 66.5% 全国 66.9%>

登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる問題

【分析】

- ・「ぶあいそう」の意味を理解していなかったことが要因と考えられる。

【教科としての対策】

- ・語彙を豊かにすることは、年間を通じて取り組むべき活動であり、物語文や説明文に限らず、児童が「分からない」と感じる言葉は積極的に調べていくようにするとともに、実際に使ってみる場を設けたり、教室環境として掲示したりするなど、継続的に取り組んでいく。
- ・教科書に出てくる言葉だけでも限定的になってしまうので、物語文の並行読書を推進していき、子どもたちの読書活動も実りある有意義なものにしていく必要がある。

(2) 算数

○成果が見られた問題

3 (4) <本校 81.0% 県 71.0% 全国 72.0%>

角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題

【分析】

・問題の図の五角柱は側面が下になっているため、底面と側面について正しく理解していないと底面の数と側面の数を逆に回答してしまいがちだが、ほとんどの児童は正確に回答できていた。

●課題のある問題

4 (3) <本校 28.5% 県 29.9% 全国 31.0%>

道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題

【分析】

・どちらの距離も同じことには気付いているものの、かかった時間がかなたさんの方が短いことから、かなたさんの方が速いということについては記述できていなかった。また、道のりは同じことに気付きながらも、かなたさんの道が直線でないことからかなたさんの方が遅いと回答するものも多く見られた。

【教科としての対策】

・自力解決の場面においては、答えだけでなく、なぜそうなったかという理由をノートに記述し、自分の考えをもてるようにする。比較検討の場面においては、根拠を明確にしながら自分の言葉で説明する場を設ける。その際、発表者が説明したことを再度他者が自分の言葉として説明するといった活動も取り入れ、根拠を明確にした回答ができるようにしていく。

3 9 学年の分析と対策

(1) 国語

○成果が見られた問題

4 ー <本校 77.3% 県 54.3% 全国 54.9%>

表現の技法について理解しているかどうかをみる問題

【分析】

- ・表現技法は、短歌や俳句にとどまらず、情景描写や会話文の多用など物語文で見られた時にも、生徒とともに確認をし、その効果についても授業内で取り上げるようにしていたため、直喩や倒置が該当しないことも判断できたと考えられる。

●課題のある問題

1 四 <本校 45.5% 県 48.6% 全国 44.7%>

話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題

【分析】

- ・解答の指示を正しく読み取ることができなかったことや、条件を満たして記述することができなかったことが要因であると考えられる。

【教科としての対策】

- ・自分の考えを書くことは、日常的に取り組んでいく指導事項である。はじめから長い文を書くことには抵抗を感じる生徒もいるため、普段から振り返りやまとめの時間に自分の考えを書くなど短時間でも少しずつ取り組んでいく。また、作文問題の無答率が0%であったことは本校の強みでもあると思うので、どのように書いたらよいのかグッドモデルを用意したり、空欄補充の形式で書かせたりするなどの支援をしていく。

(2) 数学

○成果が見られた問題

8 (3) <本校 100% 県 76.8% 全国 76.9%>

グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができるかどうかをみる問題

【分析】

- ・グラフの傾きや交点の意味を正しく読み取り、解釈して、穴埋めをすることができた。
- また、例題や練習問題で扱ってきたこともあり、今までの成果が表れたと考える。

●課題のある問題

6 (2) <本校 38.1% 県 37.1% 全国 35.9%>

目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる問題

【分析】

- ・2 の倍数であるためには2をかける形に変形することが必要であるとは理解しているが、2に分数や小数をかけた場合には必ず2の倍数になるとは限らないことに気が付いていないと考えられる。

【教科としての対策】

- ・数学的な表現を用いて、事象を生徒が説明したり、話し合ったりする活動を取り入れていく。
- ・身に着けた知識・技能を活かして、自分の考えを表現できる授業工夫が必要である。そのため、自分の考えを相手に伝える時間を十分にとることや、考え、説明する問題を多く取り扱うこと、振り返りを自分の言葉で書くことを重視した授業計画を考えていく。